

もりした・ようこ バレリーナ 松山バレエ団団長。広島県出身 3歳よりバレエを始める。昭和46 年松山バレエ団に入団、49年ヴ れる。著書に『バレリーナの羽ば たき』『バレリーナの情熱』等。

って、当事者の私どもがやっていかなけ 日々新たな気持ちで改めていこうと。 たち当事者がつくっているものなので けど、悪い面というのは、やっぱり自分 それから何よりも、目的をきちんとも けないと思うのです。 最近考えて

> ざましい進歩だとは思います。 要ではないかと感じるんです。

私たちの自助努力がこれから先とても重 たり、そういうふうになっていくには、

ただ、

界をつくったり、

よい交流にしてつなげ

ていくのではないか。ある意味でよい世 は、よい人間をつくる、そこにつながっ いるのは、よい芸術をつくるということ

河合 森下 かないと。 せになっていくとか、よい社会ができて 者かなと。やっぱりそれによって人が幸 番しっかりしなければいけないのは当事 世界もすごく身近になってきてるし、一 るんですね」とインタビューで聞かれま いくとか、 した。そういう時代から考えると、今は いう時代で、「日本人もバレエってでき それは確かに急激ですよね。 当時は、バレエというとロシアと そういうものにつながって

河合 物の舞台芸術体験事業」を実施していま 台芸術などに触れる機会を提供する「本 文化庁では、子どもたちがすばらしい舞 の言葉が出てくるのはよくわかります。 自分が当事者でおられるから、そ

> ださってますね。 すが、松山バレエ団はずいぶんご協力く

光と闇といいますか、よい面はいいんだ

うのは、よい面もあれば、悪い面もある。

もなっていくのがすごく大切なことです。 うやって国で助けていただくことによっ 自分たちだけではなし得ないことを、そ まで行ったり、 二〇世紀が科学の時代なら、二一世紀 ープラスーが二じゃなくて何十倍に 山奥へ行ったり、奄美大島のほう 今度沖縄へも行きます。

は文化とか、人間の魂とかそういうこと が大切になる時代では……。 芸術の時代、 私はそう思いますね。

子どもたちに自信と勇気を

森下 打たれてるのがわかります。やっぱり目 河合 私、子どもたちの感想文を読まし るということを見せなくてはいけない のに関して真剣に、命をかけてやってい ではなくて、 いうものですよって見せるために行くの いうのは、すごいことじゃないですかね。 の前で真剣にやっている人の姿を見ると てもらって、 ただきれいとか、 自分の生きざま、 感激しましたね。 バレエってこう 一つのも 本当に心

お考えをお聞かせください。 す。文字どおりバレエの第一人者ですけ 年に芸術院会員になっていらっしゃいま 我が国の舞台芸術の現状について、 平成九年に文化功労者、平成一四 もう皆さんのおかげです。

ると思うんです。 にすごく目を向けるようになってきてい る人も多くなってきた。日本全体が文化 動がさかんになって、芸術・文化に触れ いた当時に比べると、今はものすごく活 私がヴァルナで金メダルをいただ

気をつけなければいけないと思

森下さんは、有名な話ですが、

るのが私たちの役目だと思うんです。 本方な、何かが心に入っていくようにすからいろんなことがあってもがんばれるか、勇気とか、希望やロマンとか、これからいろんなことがあってもがんばれるからいろんなことがあってもがんばれるからいろんなことがあってもがんばれるからいろんなことがあってもがんばれるからいろんなことがあっていくように、学校の私たちの役目だと思うんです。

河合 感想文に、〈ああ、きれいだな。私河合 感想文に、〈ああ、きれいだな。私

本下 自分たちが日ごろ使ってる体育館がみるみるうちに劇場になっていくわけがみるみるうちに劇場になっていくわけがみるみるうちに劇場になっていらのになって何回も稽古してる。そういうのを子どもたちが肌で感じてくれることがある。

ますね。 がるわけでしょう。あれは大きいと思いかるわけでしょう。あれは大きいと思い

こっちがほんとに真剣に立ち向かってい森下 子どもはすごく純粋で敏感だから、

こへでも行きたいんですよ。 次の時代ったら、わかると思いますね。次の時代が私たちの使命であって、それに対してが私たちの使命であって、それに対してありがたいことです。もうどものすごくありがたいことです。 もうどこへでも行きたいんですよ。

河合 それをお聞きして我々もうれしい

森下 私たちが行った中学校の子が東京に修学旅行に来たときに、「一日研修をやらせてくれ」って頼まれたり、「高校生になりました。私たちもがんばってます。になりました。私たちもがんばってます。になりました。私たちが行った中学校の子が東京とれたり、そのつながりがすごくうれをくれたり、そのつながりがすごくうれ

中学生の子の中で、一人とても無口で、中学生の子の中で、一人とても楽しんです。帰ってきたら、「もうとても楽しかった。うれしかった」と、みんなに報かった。うれしかった」と、みんなに報なったそうです。

済、全部関係してるんだという話をよく河合 文化芸術は教育、福祉、社会、経

ね。するんですけど、まさにそのとおりです

森下 子どもたちが生き生きとして帰っ た。これはまた来年もぜひということで、今年もみんな楽しんでくれたこと

冷合 それはいい話ですね。

みんなの力で

河合 松山バレエ学校には全国に教室が

森下 松山バレエ学校の支部は、全国にありますし、たくさんの事を学んでいます。る人だけがというのではなくて、公平にる人だけがというのではなくて、公平に私どもは、バレエは何か特別な才能のあ私どもは、バレエは何か特別な才能のある人だけがというのではなくて、公平にみんなでいくものだと思っています。

「体が固いからだめなんです」とか、最初 「体が固いからだめなんです」とか、最初 しょうか」といって連れてらっしゃる。

ですか。特に外国では、才能のある人が河合 しかし、それは珍しいんじゃない

森下 そう。「あなたはやめたほうがいい森下 そう。「あなたはやめたほうがいいです」と、本当に小さな子どもにもはっきりいうんです。例えば私なんか身長一五〇センチ足らずですし、オーディションで大体一六五センチ以上というと、受ける資格もないわけです。そういう目でける資格もないわけです。そういうと、なが創意工夫しながら、一つの作品をつくっていく。

つけるわけですからね。
の中で自分が考える。自分を見

森下 そんなことで差別するものが芸術だったら、これはほんとに怖いと思うし、こそ先生がおっしゃった教育、経済とか、こそ先生がおっしゃった教育、経済とか、こそ先生がおっしゃっながってると思います。 かんたバレエ団が、国際的に通用するといれたバレエ団が、国際的に通用するといれたバレエ団が、国際的に通用するといれたバレエ団が、国際的に通用するといきできない。

芸術にはならないし、舞台芸術としてや

っぱりだめですね。

ことはできるけど、その中にハートが入

森下 入る。 だけが目立てばいいのだったら、これは うのはみんなの力がなければできないの おっしゃってくださいました。作品とい 舞踊批評家のアンナ・キセルゴフさんが うことを、ニューヨーク公演のときに、 ただそろって、機械的なんじゃないとい るけれど、ハートがないんですね。 ければいけないということで、ただ主役 です。みんなが同じ思いでやっていかな 人は一人ひとり、魂じゃなくて、自我が ですけど、日本人はちゃんとそろってい 河合 それは音楽の場合でも私は思うん 私どもはそういう意味では、ただ これもちょっとまたおかしい。 外国

河合 それは舞台芸術の一つの本質です

海外で学ぶ

てるのは、相当な数でしょう。

本人はまじめだから、きちんとそろえるゃってくださるのがすごくうれしい。日

くださった方が、「何か違う」っておっし

森下 今、全生徒が二○○○人ぐらいで にようか。私自身、ある意味では純国産 に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も に、そういう意味では、外国に何年も

が、そういう点はどうですか。 河合 今も、いろいろな方が行かれます

森下 若いアーティストにとっては、ものすごく心強いことです。そういう意味では、あの制度はすばらしい制度だと思います。行く側は、日本の文化行政の先います。行く側は、日本の文化行政の先いとして、日本人としての誇りとか、自分の生き方を海外の方に認めていただけるように努力しなければいけない。私自るように努力しなければいけない。私自るように努力しなければいけない。私自るように努力しなければいけない。私自ないできたと思うんです。

河合 言葉の障害は感じられませんか。んに、チェックをしていただく。 というか、自分が学んできたものを皆さ

言葉は通じなくても、

何か感じ合

バレエは身体で覚えていくもので

で言わなきゃいけませんからね。 かだめで難しいんです。 い通じるものがあるというか 我々は言葉ができないと、なかな 心のことを言葉

河合 河合 て受かった人は、日本へ帰ってあまり貢 査してましてね。 さすがアメリカですね。ずうっと追跡調 思って聞きに行ったんです。そしたら、 ごく下手なのに受かったんで、不思議に ったんです。 それをどうやって生かしていくか。 行ってらっしゃるし。帰ってきてから 私はフルブライトでアメリカへ行 音楽なんかオペラの方もずいぶん 関西弁の英語でやってます(笑)。 ところが、私は英会話がす いわゆる英会話ができ

伝えたいという気持ちに言葉がついてい まできちっと見て。 ってると、それはそれでいけるんです。 これやりたい、 すごいですね。 あれやりたい、 そういったところ これを

きに、僕は受けてるんです。

英会話への配点をものすごく減らしたと 献していないという結果が出た。それで

> 応援してくださってるわけだから。 のすばらしいことを、 益するわけですから、 てくるということは、 てはもったいないですね。国がそれだけ ってくるわけです。 やっぱり行く人たちがしっかりしなく そういう人が、ものをもって帰っ 日本の国民全体が 次の世代の人にと それはちゃんと返

レエの魅力

河合 場もない団体もあるとか、 援がなかなか難しいとか、そもそも稽古 過ぎるという意見もあります。それで支 か考えられることはありますか。 ですが、文化庁が支援をする場合に、何 てますが、日本は外国に比べて団体が多 る支援とか、評価とか、 文化審議会では、 舞台芸術に対す いろいろ議論し 課題もあるん

森下 という人になかなか支援できない場合も うだろうし。ただ、誠実にやっていこう だろうし、選考する先生方によっても違 幅広いものに少しずつという考えもある すごく難しい問題だと思います。 その辺の基準というのが難しい

んですよね。

評価がないのもおかしいです。 がないとだめだしね。 してるとか、 難しい問題ですけどね。 厳しい目があるということ といって、 誰か評価

アンケートはだいたい返ってくるんです 子どもたちのところに行かれたときの

楘 出してやろうというのが、 ってきてるところがあるのではないでし 〈よかった〉と思うんですよ。今の時代 は生き生きとしてますからね。やっぱり ると思うんです。その子たちが帰るとき 「バレエー?」なんて思って見てる子もい みんなで目標をもってエネルギーを はい。男の子なんか最初はきっと、 結構希薄にな

レエはわかりやすいほうだと思います。 物語、ストーリーがあって、 舞台芸術を初めて見るときに、バ 男性もずいぶん増えました。 世界でどこへ しかも踊り 河合 森下 てるんです。

河合 森下

女性というのはどうなってるんですか。

今、バレエファンというのは、男性

河合 僕はともかく「白鳥の湖」を見ろと言っ 感激するのは、バレエかもしれませんね。 けど、しかし、その人たちが見てパッと 運動はどうしようなんて言ってるんです 番お金を使わないから、お金を使わせる 行っても通じるものですよね 我々は、五〇代の男性が芸術に あの最初は。 そうですね。 あれはみんな驚きま

河合隼雄文化庁長官対談

いとだめですね。

ようか。

河合 今度、芸術のほうへそれを向けな

そうそう。この世ならぬという感

と音楽がありますからね。

きれいなものだし。

ロシアとの文化交流

「シアにおける日本年」ということで、

河合隼雄

いを

みると、 てしまった、とのこと。 それを広げて売っている。 書をたくさん、背中に担いできた人が、市場でよると、サハリンでは、本屋などはなく、新刊 彼はサ 彼の著書がその中に五冊もあって驚 リンへ旅をしてきたのだが、 なにげなくのぞい 7

日本の作家の著作をロシアの若者が熱心に読ん ロシア文学を読んで感激したものだが 私たちは若いころ、ドストエフスキー 国際文化交流もおもしろいものだ。 - などの

れている、ということを話された。 の作品のロシア語訳が出版され、

けるとも

村上春樹さんと話し合う機会があっ

することができた。

そのとき、

文化大臣が、

日本の村上春樹さん

実に広く読ま 特に、

若い

訪問。その際にロシアの文化大臣と話し合

音楽もわかりやすいでしょ。 じがする。実際そういう世界ですけどね

河合 いっぺん、そういうのを考えまし 森下 はやりますから、 湖」なんです。 ようかね。 私も一番初めに見たバレエが 何かあったら、 ほんとに感激しましたね。 おっしゃってください。 いくらでも私たち 「白鳥の

ぜひぜひ。

河合 どうもありがとうございました。

アで催された。私もその行事の関連でロシアを のさまざまな文化芸術に関する公演などがロシ 日本